様式第５号

令和７年度　学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	24	学校名	伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校	記載者	松本仁美

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	関係者評価・意見
安全・安心	**生命の尊さや人とのつながりを大切にし、一人一人の良さを受け入れ、互いを思いやる心の醸成**	・各学部の経営計画に基づき、児童生徒の命が守られていると答える教職員や保護者（AB100%）（保護者 AB90%）	B	B	・児童生徒の安全と命を第一に考え、個々の気持ちや願いを優先した支援の充実。
		・信頼できる教職員に向けて、自身の行動を振り返ることができた教職員（AB100%）	A	B	・声を掛けやすい雰囲気と、いじめのない校内環境の体制づくり。 ・週予定の内容のミスが多い。ダルチェックが必要。保護者は週予定を見て動いているので、大事なことは書いてほしい。
	命のつながりを実感する食育の推進	・給食センターと連携し、食育指導や安全な給食提供ができたと答える教職員及び保護者（AB90%）（保護者 AB100%）	B	B	・地産地消を基本とする食材の選択と給食センターと連携した給食の提供。
	児童生徒の命を守る安全教育の充実	・緊急時の対応や防犯防災訓練をとおして、自分の身の守り方を学んだ児童生徒・教職員（AB80%）	A	B	・防災訓練については、児童生徒の安全を最優先とする。一時避難路と避難先の再検討を要す。 ・防災についての取組については、正解がないので、今後も地域の方と連携した対策を考えていって欲しい。
専門性	主体的・協働的・深い学びによって、資質・能力を育成する授業実践	・ラーニングマップ等の活用による授業づくりを行い、実践後に授業改善を進めた教員 AB90%）	A	A	・児童生徒が互いに学び合う校内学習・研修の見直しにより、よい解決方法を導き出す。
		・児童生徒の実態と学びを見取り、適切な目標設定と評価ができた教員（AB90%）			
	特別支援教育の専門性の向上	・障害の特性に応じた支援や学習指導要領に基づく研修ができた教員（AB90%）	A	B	・学校全体として専門性を確保していく上で、すべての教員が多岐にわたる専門性を身に着けることが困難な場合は、外部人材の活用も実施する。 ・地域の福祉施設とも連携をして、新たな支援方法も身に着けていって欲しい。
		・ＰＣやタブレット等の活用により、授業準備の効率化や学習の定着に効果を得た教員（AB80%）	B	B	・ＰＣやタブレットを活用することにより、学ぶ楽しさと苦手な科目を繰り返して学ぶ。
連携	**キャリア教育の視点で小中学部、高等部のつながりと、児童生徒の願いや夢**	・小中高の系統性や将来を意識して指導できた教員（AB90%）	B	C	・社会的・職業的な自立に向け基本となる能力を育てる。 ・将来を意識することはこれからも続けていって欲しい。また、福祉施設や事業所、障害者雇用をしている企業との連携を行

様式第５号

	を大切にした進路指導の充実				っていき、より、将来を考えた対応をお願いしたい。
		・児童生徒に応じた適切な情報提供や、進路指導ができたと答える教員及び保護者（AB90％）（保護者 AB94％）	A	B	・児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるために、将来に対する目標意識をもち指導・援助する。 ・福祉施設が少ない賀茂地区において、保護者の進路についての不安はなかなか解消できないのが現実だと思う。
	地域住民との協働を推進し、地域と共に歩む学校づくり	・各学部において、適切な交流を計画し、地域に貢献できたと感じる教職員（AB85％）	A	A	・地域住民と学校が、目標と目指すべき展望を共有し、互いに連携し協働して地域と共に学校づくりを実践することで、子供の成長と地域の活性化を促進していく。 ・中学部の生徒は、地域の就労継続支援 B 型事業所や生活介護事業所や松崎分校の卒業生が働いている企業の見学をする等して、自分の今後についての学習する機会の提供ができたらよい ・公共交通機関を利用した地域学習も取り入れられたらよい ・（案）街の人に協力してもらっての学習 「助けを求める学習」 校外学習時にトイレを借りる。お願いやお礼の練習になる。時にはわざと断られる場面を用意し、断られたときの対応を学ぶ。 「困っている人を助ける練習」 困っている人を見つけたときにどうするかを学ぶ。
		・地域の資源や人材を活用した学習活動をとおして、児童生徒が意欲的に学んだと感じる教職員及び保護者（AB85％）（保護者 AB100％）			
チーム学校	**特別支援学校のセンター的機能の充実及び関係機関との連携の強化**	・センター的機能による成果の整理及び検証（毎学期）	A	B	・相談・助言と福祉・医療・労働党の関係機関との連携。
		・学校内外の情報共有と、支援会議やケース会議等での案件の整理及び成果の検証（毎学期）	A	B	・相談・助言と福祉・医療・労働党の関係機関との連携。 ・同じ地域の福祉との関りをもっと多く増やしていけたらと思う。
	教職員一人一人が　責任をもった業務遂行と、やりがいを感じる働き方の推進	・キャリアステージと自己評価シートに基づき、自身の役割を理解して分掌や学部学年の運営等に携わった教職員（AB90％）	A	B	・児童生徒の個々のニーズに沿った姿勢、障害を理解し、個々の発達に準拠した指導と支援、保護者との連携。 ・教員一人ひとりが児童生徒の今後の成長に携わっているということを意識して、業務にあたるということの再認識は、その都度、必要だと感じる。
		・計画的な業務遂行のために努力し、働き方を改善できた教職員（AB100％）	B	B	・グループウェアを導入し、情報管理の一元化と共有化をして、ペーパーレス化して入力作業を軽減化する。